

第7期 横浜市子ども・子育て会議 第2回子育て部会 会議録	
日 時	令和7年11月5日(水) 午後6時00分～午後7時00分
場 所	市庁舎18階みなと1・2・3会議室（オンライン併用開催）
出席委員	堀委員（部会長）水谷委員 上岡委員 上澤委員 柴田委員 田中委員
欠席委員	丹羽委員 松井委員
開催形態	公開（傍聴者0名）
議 事	<p>《議題》</p> <p>1 こども、みんなが主役！よこはまわくわくプランの点検・評価について</p> <p>2 その他</p>

○堀部会長

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。本日、1つ目の議題となります
こども、みんなが主役！よこはまわくわくプランの点検・評価について、委員の皆様の御
意見を伺いたいと思います。御意見をいただくにあたりまして、事務局から資料の説明を
いたします。それでは、事務局の方、よろしくお願いいたします。

○事務局

事務局から資料5「こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン」の点検・評価方
法（案）を説明。

○事務局

本日御欠席の委員からは事前にご意見はいただいてございません。

○堀部会長

どうもありがとうございます。

では、御出席の委員の皆様、御意見、御質問はございますでしょうか。

では、上澤委員、よろしくお願いいたします。

○上澤委員

横浜障害児を守る連絡協議会の上澤です。よろしくお願いいたします。

基本施策5の障害児・医療的ケア児等への支援の充実の評価について御質問させていた
だきます。

療育センターの巡回訪問回数目標値が3,500回と出ておりますが、評価の方法が利用者、
対象者にアンケートなり、インタビューをしてというふうに書かれているんですけども、

療育センターの巡回訪問を評価する対象者＝利用者は、学校になるのか、保護者なのか、こどもなのか。例えば、先生はとてもよかったと言っても、保護者やこどもはクラスの状況が変化していないというふうに感じる場合もあるかもしれませんし、私は、娘が幼稚園のときは巡回訪問で、療育センターが何日に行きますということで教えていただいて、娘さんの様子はこうでしたよ、クラスの様子はこうでしたよと教えていただいたんですが、小学校になると、全くいつ行ったのかも分からず、来たのかどうかも分からずという形で、来られても1回ということで、もし保護者やこどもたちが対象者ということなんでしたら、一体いつ来ているのかということ公表していただかないと、保護者やこどもたちも、来たことによってクラスがどうなったのか、変わったのか、環境調整をしてもらえたのかとかという評価ができないと思います。それから、巡回訪問の回数についても、幼稚園や保育園は狭いからいいと思うんですけども、小学校だと1年生から6年生まであって、例えば1年1組を見に行きました、それで1回ですというふうに言われてしまうと、ほかのクラスは見えていないけれども、施設訪問としてはそれで1回と数えられてしまうと、どうなのかなというがあるので、そのあたりの評価方法とどういう基準で1回と数えるのかということをお願いしたいです。よろしくお願いします。

○堀部会長

上澤委員、どうもありがとうございます。今の上澤委員の御質問についてなんですけれども、事務局、いかがでしょうか。

○事務局

まず、本日の御意見を踏まえて、また、考え方等の整理を事務局のほうでさせていただくこともあろうかとは思いますが、現状の私どもの考えとしてお伝えさせていただきます。

まず、私どもで療育センターの巡回訪問と言っているときは、あくまでも学校、あるいは幼稚園といった組織、実際の通っていらっしゃる場所の運営者施設の方からの要請に基づいての派遣を巡回訪問と捉えています。お子様の親御さんから、あるいはお子様個人に御希望でという訪問の方法もあるのは承知していますが、こちらについては、別制度で例えば保育所等訪問事業もあり、各事業のすみ分けもいろいろ今後していかなければいけないところもございますので、今回のプランで考えているのは、あくまでも保育所、幼稚園、あるいは学校などの施設の側からの御要請での訪問について、巡回訪問というようにまず想定しています。ですので、その満足度についても、今の段階で事務局で考えているのは、基本的にはそれを頼んでくださった事業所、つまり学校ですとか保育所等からの

御意見を想定させていただいております。また、訪問回数の考え方につきましても、その幼稚園、保育園等からの要請に基づいて行くのを1回と捉えますので、その中で幼稚園、あるいは保育園なりのほうが1クラスだけという形を取るのか、何クラスもというふうに見るのかというのは、そこはある意味、実際の運営の中での打合せというかで決めていくことになりますが、回数の数え方としては、その事業所様から1回というので私どもとしては評価しようと思っています。

今、委員から御指摘ありましたように、状況が変わらないとということなんかの部分も評価指標にするのかとかいう視点は御意見として賜りましたので、改めて事務局の中では検討事項と思っております、現状では、今申し上げたようなカウントの仕方、考え方だと思っていたところでございます。

障害児福祉保健課からは以上でございます。

○堀部会長

ありがとうございます。上澤委員、いかがでしょうか。

○上澤委員

ありがとうございました。タイトルがこども、みんなが主役！よこはまわくわくプランですので、こどもたちが本当に過ごしやすくなったという環境、今は一般級で入学しても、学年が上がるにつれて、どんどん個別支援学級のほうにクラスを変更していく児童生徒が増えておりますし、やはり学びの場の継続というよりは学びの場の変更を優先してしまっているという大きな課題があると思いますので、もちろん先生方の満足度もいいんですけども、最終的にはこどもたちのそれが満足度につながるようなアンケート、評価のやり方を考えていただきたいと思います。

それから、学校のほうの要請で行くというのは承知しているんですが、最新の状況はどうか分からないんですけども、個別支援学級はセンター的機能で特別支援学校の管轄だから、療育センターの管轄は一般学級だから、個別支援学級のほうは学校がどうぞと言ってくれないと見ることができないと言われておりました。やはり障害児の支援の充実という施策で挙げていただいているのに一般学級しか見られないというのはおかしいと思いますので、そのあたりは、例えば個別支援学級は必ず見るとか、せめてそのあたりは考えてやっていただきたいなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○堀部会長

ありがとうございます。貴重な御意見いただきました。今後の評価基準の検討の参考に

していただければと思います。

では、委員の皆様、ほかに御意見、御質問などございますでしょうか。水谷委員、お願いいたします。

○水谷委員

水谷です。こういうわくわくプランは評価とかがすごく大変で、皆さん、いろいろまた御検討いただいて本当にありがとうございます。6つ聞こうと思うので、それぞれ教えていただければと思います。

まず、11ページ目の最初のところで、新しく目標を立てると評価をされるということで、ちょっと自分が理解していなかったら申し訳ないんですけれども、例えば1番の青少年の地域活動拠点等において利用者の自己肯定感が高まったと感じた割合、もともとは策定時の63%、それに対して目標70%とありますけれども、それぞれによって目標の立て方の基準みたいなのはあって、こういうふうに立てられているのかについて教えていただきたい。

2点目が同じ11ページの例えば1番と2番なんですけれども、それぞれ青少年の地域活動拠点の利用者とかよこはま子ども・若者相談室の利用者アンケートは、nはあまり大きくないんじゃないかなと思うんですけれども、もともとの年数のnはどれぐらいか、お分かりだったら教えていただきたいです。

3点目がその方向性の進捗を確認するというんですけれども、例えば3番の学力・学習状況調査で、「将来の夢や目標を持っていますか」というアンケートがあって、皆さんもおつらいところでいろいろ目標を立てていただいていると思うんですけれども、こちらを維持・向上するんですけれども、これを上げるための施策というのは何かあるのかなというところと悩ましい感じがして、出してはいるけれども、この場合、方向性や進捗をどうやって上げるために努力しなきゃいけないんだろうかと思うと、その目標として上げるのにいろいろ大変なんじゃないかなと思ったので、それについてコメントをいただければと思います。

4点目、14ページです。先ほどの有効性の評価について、S A B Cを変更されるということで、分かりやすくてよかったなと思うんですけれども、有効性のことを丸、米印にするのが客観的な評価を実施できていない、または評価するのがなじまないということになると、これはこれでつけていただくのは構わないんですけれども、こういうのがつくということは、もともと評価が難しいものをここの課題に挙げてしまったんだなということで、例えば、今回評価したら、次からこれはなくなっちゃうのかなということが証明されるの

かなという意味でいいですかねというところが一つ。

5点目は、プラスは有効性がある、何もなかったのは何もないんだけど、有効性があるやつと、もう1個、マイナスにいつているというんですか、マイナス評価がたくさん出てきてしまったときと空白のところの評価はできないのではないかなという意味では、それについて少し考えたほうがいいのかもしれないなと思ったことが5点目です。

最後6点目、10ページ目の有効性の評価基準で、例えば①利用者・対象者の行動変容で、アンケート、インタビュー、追跡調査、多分、アンケートは有効性を評価する際に分かりやすいと思うんですけれども、インタビューとか追跡調査は、そのやり方を考えなきゃいけない、要するに客観的にインタビューを受けた人の何番目の人をやるとか、何人やるとか、もともと評価しないといけなくて、その中で例えばインタビューにプラスに答えた人の割合、プラスというのは例えばインタビューでできますとか、丸の肯定的な反応ですよ。そういうものをプラスと評価するとか、そういう基準をちゃんとつくらなくてはいけないのではないかなと。あと、インタビューする人も選んではいけない、要するに、もともと声をかけたけれども、答えてくれなかった人とかも評価して順番をしないと、客観性と言って評価するのであるとなかなか難しいのではないかなということで、ちょっといろいろ言ってみたんですけれども、お返事をお待ちしております。

○堀部会長

水谷委員、どうもありがとうございます。評価基準の点についての6点の御質問だったかと思うんですけれども、事務局、いかがでしょうか。

○事務局

まず最初に1点目、目標の立て方の部分について、計画策定時にそれぞれ重点テーマⅠ、重点テーマⅡにつきまして、事業所管課が持ち合わせているデータ等も含め、現状値から算出される目指すべき目標値として設定をしているものになりますので、今お答えをそれぞれの事業について細かくというところが難しいです。例えば先ほどお話しいただいた青少年の地域活動拠点等において利用者の自己肯定感が高まったというところについては、利用者アンケートの中で、自分自身への変化の項目で、自分に自信がついた、人前で話すのが得意になった、自分が明るくなったなど、どのように答えたら、ここの何%に当たるかというところは細かく設定しています。ただ、その70%というのをどういう根拠で立てたかというところが今明確にお答えが難しいです。

2点目、同じくもともとのn値が少ないんじゃないかというような部分につきましても、

今、手元にデータを持ち合わせていませんので、後ほど確認し、委員の皆様にお示しできればと考えてございます。

3点目が、今回、横浜市学力・学習状況調査におけるものの向上の仕方についてというところかと思います。ここの部分につきましても、ご意見いただきましたように、どのように向上させていくかというところが非常に難しいところではありますが、各アウトカム指標もそうですが、重点テーマⅠの中で、今言った事業に限らず、関連する施策というものを体系的にまとめています。それがプランの概要版などにまとめさせていただいていますので、例えば重点テーマⅠに関連する事業、そういったものをどう評価していくかというところは、引き続き検討できればとは考えてございますので、一つ一つのアウトカム指標について、どういうふうに向上させていくかというところも事業所管課と対応していきたいと考えてございます。

5点目にいただいた有効性が高くないもの、それについて丸がついていないとどう表していくのが難しいのではないかという点につきまして、もともとSABCで評価をさせていただいた際にも、BとCの評価をつけていないという実態がございましたので、その点も踏まえて、今回、丸と丸をつけないというやり方に変えましたが、例えば丸がついていない中でも、ある程度有効性は担保されつつも特に高いとは言えないというものと、質を高めていくためには課題があるのではないかという部分につきましては、備考欄で表現できるようにしていきたいと、事業所管課とも調整をしていきたいと思います。私たちの部署でとりまとめますので、その際に、御指摘の内容について、クリアにできるようにしていきたいと考えています。

○事務局

補足させていただきますと、10ページで、アンケート、インタビュー、追跡調査など様々な方法を例として記載をしています。施策1から施策9まで多くの事業があり、それぞれ点検・評価をしていくのですが、一定の基準をつくって評価をすることになります。進捗状況については、数字で表せるもので、100%を超えたからA、120%だからSと、分かりやすいものになっていますので、これは変えない想定です。有効性については、同様の評価方法では難しいと考えており、その中でも客観的に見て、特に有効性が高いと言えるものについてはプラス評価というようなイメージで丸をつける。ただ、事業の中には、なかなかアンケートやインタビュー自体が難しいもの、そもそも1年では効果が分からないものなどもありますので、それについては※印をつける。※印がついたから駄目だというわ

けではなく、なかなか客観的に測るのが難しいという意味で、特に福祉分野の事業については、そういう部分も多々あると思いますので、個別の事業をどう評価して、どういう評価方法を取ってやっていくのかという点は、できる限り、それぞれの事業に合った方法でやっていきたいと思います。誰が見ても客観的に、説明ができる評価にしていきたいと考えています。来年度以降、各部会で委員の皆様からいろいろ御意見や課題もいただきながら進めていければと考えています。

○水谷委員

覚えていていただいて、ありがとうございます。いろいろ申し上げたのは、年度ごとにばらつきが出てきて、前はAだった、前はSだったというのと、結局、評価方法を丸とか米印とかにして、変わってしまうと、ばらつきが多いものは評価が難しい。評価が難しいから意味がないというわけではないんですけれども、やはりこういった評価をしていこうという指標を出してしまうと、それをきちんと評価できなかつたら、それを評価するものとしては難しいのかなと。ただ、見ていくということが必要ではあるという意味で、例えば最初の11ページの学力・学習状況調査の夢や目標の数値を横浜市として追って行って、それについて踏まえながら、いろいろ事業をやりたいとかという意味で出ているのは問題ないと思うんですけれども、よくするとか何とかという目標を立ててしまうと、なかなか大変なことはいろいろあると思うので、○×がいいというわけではないんですけれども、やはり皆さんの今やっている評価するというのは、ちゃんと見ていますよという意味での評価をするというところを忘れないようにしていただいて、また、これからも立てていただければと思います。いろいろ申し上げて申し訳ございませんでした。

○堀部会長

今の評価基準の関連で私からもよろしいでしょうか。今お答えいただいていたんですけれども、水谷委員もおっしゃっていたように、空白の項目がつくわけですね。やっぱりそれがどういうことなのかなというのが気になるんですよね。ここの変更案のところだと、その有効性が高いか低いかという軸と、客観的な根拠に基づいているか、基づいていないかという軸、その2つの軸があると思いますので、それを4象限で考えると、4つ選択肢というのは想定できると思うんですよね。それを2つにまとめようとするものの難しさという所が出てくるという気がしまして、例えば特に有効性が高いと判断した事業に丸ということですが、これは客観的評価に基づいて有効性が高い、それから、客観的な評価には基づいていないけれども、有効性が高いというものも含まれるのかどうなのかという

ことなどが出てきますので、そこら辺をもう少し御説明いただけるとありがたいと思います。

○事務局

今おっしゃっていただいた中で、私の説明が不十分だった部分があったと感じておりますが、今回の見直しに当たり、客観的に評価をしていきたいというところが一つ大きな目標としてございました。客観的にきちんと測った上で、有効性は高い低いではなくて、特に高いと判断したものに丸をつけるということを前提として考えてございます。有効性は高いと判断はしているが、客観的に示せない場合は、米印をつけ、その内容を備考欄に記載する。ニーズは確認できているが、客観的なものが現状は取れていないということであれば今後、アンケートや調査などで確認していくといった内容を記載していくようにしたいと考えてございます。

○堀部会長

分かりました。ありがとうございます。

ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。ほかに御質問や御意見などございますでしょうか。

○柴田委員

何点かあるので教えていただければと思います。

はじめに11ページの重点テーマとして、新たに指標として3つ挙げられていると思うんですけども、3番の市の学状の生活・学習意識調査の①、②、③を指標に入れるというのはちょっと違和感があって、自己肯定感がより高いほうがウェルビーイングにつながっているんだという判断だと思うんですけども、例えば夢や目標を持っていなかったら、それは悪なのかと。現時点でそれがないというあなたもいいよということの評価していくものだと思うので、こういったものを指標として、進捗状況としてこうだよと評価することが果たして適切なのかなというの少し疑問としてあります。自分のことが好きもそうだと思います。嫌いだということを肯定してあげるべき話であって、これが上がったから下がったから、下がったらマイナスなのかというと、そんなこともないよねという気がするので、そのあたり、何であえてこれを入れるのか、見解が聞ければなというのがあります。

2点目が12ページの最後のNo. 1と3に子育て家庭の時間的負担感とか経済的負担感とあるんですけども、子育ての時間的負担とか子育ての経済的負担感のほうがより指標とし

ては適切な表現なのかなと私は思ったんです。あえてここに家庭を入れているというのはどういうニュアンス、今言った「子育ての」の場合と「子育て家庭の」に使い分けているというか、あえて入れているということで、どういうことをさらに指標として見たいのかというのがあれば教えていただきたいなと。どちらかというところ、このテーマで言うと、家庭がないほうが意味としては通るのかなと思うんですけども、ちょっとそこを聞きたいなと。

あと、7番の小1の壁というのが、多分、定義づけとして何を壁とするかというのをまずちゃんと決めるというか、共通認識として、調査のときに統一しないと、家庭側の課題として、横浜市が頑張ることで解決できる壁の要素と、企業がやってくれないとどうにもならないという要素もあると思うんですね。さらにそれを基にして、これまでの取組とか今後の取組というときに、壁の中でも横浜市としてやれる、この部分についてやるよということが指標としてないと、これで何がつかめるのかなというのがちょっと難しいんじゃないかなと、根本的な解決にならないんじゃないかなという気がするので、感覚としてどう思っているかということの状況だったり、経年の変化を見たいから入れているんだということであれば、そういうことでいいのかなと思うんですけども、かなり壁の問題になっている範囲が広いと思うので、市の課題であるなら市の課題に特化してということでの指標のほうがいいんじゃないかなと思うんですけども、何かお考えがあれば教えていただければと思います。

○事務局

指標につきましては、昨年度、委員の皆様にご議論をいただき、この決めた指標についてどう点検・評価をしていこうかというのが本日の議題なので、そこは一つ御理解いただきたいと思います。アウトカム指標ということで、新たに重点テーマⅠとⅡを今回つくりまして、アウトプットではなくアウトカムでどう変わったかという事をしっかり評価として入れていきたいという議論の中で、設定した経緯があります。内容としては、我々も現在取り組んでいますが、例えば子ども自身が直接意見を表明できる機会をつくるとか、子どもの自己肯定感を高めていきたいという意図もありまして、それが表れてくる一つのものとして掲げている指標としています。目標値が何%を目指しますというよりは、少しでも上げられるように、横浜市としていろんな施策を打っていききたいというのが、我々の評価するポイントとして掲げています。

重点テーマⅡの子育て家庭ですが、保護者の時間的負担、経済的負担、精神的負担、そ

ういったものをしっかり解消していくことで、こどもの幸せにつなげていこうという考えでテーマを設定しているため、使い分けています。重点テーマⅠがこどもにフォーカスして、こどもがしっかり幸せに育っていくと、それを自分もしっかり感じる。重点テーマⅡは、家庭や保護者にフォーカスして、皆さんが子育てを横浜でしたいなと思っていただけるよう、そういったことを目標として、違うテーマで設定しています。

○堀部会長

あと小1の壁の件についてはいかがでしょうか。

○事務局

小1の壁について、どのように聞いたらいいのかというところもありますが、漠然と小1になったときに、いろんな壁があるというのが現実としてありますので、それをいかに打破していくかというのはいろんな施策でやっていますので、聞き方としてかなり難しいと思います。おっしゃるとおり、我々の施策だけで解決できるのかというのはありますが、かかとを上げた目標をつくっていますので、これを何とか上げていけるようにいろんな施策を打っていくということで指標として設定しています。この指標設定に対する議論はいろいろあると思いますが、これが上がるように、上がらなければ、何で上がらなかったのか、どこに課題があるのか、これからどうしていけばいいのかということをまた今後5年間議論をしていくこととしております。

○堀部会長

ありがとうございます。柴田委員、よろしいですか。

○水谷委員

多分、柴田委員がお尋ねになったのは、結局、小1の壁の調査をしているじゃないですか。調査をしたときに、小1の壁について何かコメントを書いて調査をしているんじゃないかなという御意見で、そうしたら、この評価のところも、私たちが評価だけ見ても分からないから、これについて下にちょっと書いておいたほうがいいんじゃないかなというニュアンスもあるのではないかなと。多分、アンケートのときは聞いているんじゃないかと思うんです、小1の壁についてのイメージを抱かせる何かの文言が。そういうことだと思うんですけれども。

○事務局

どのように調査しているのか、点検・評価の際に参考になるようなものは掲載していくよう対応させていただきたいと思います。

○水谷委員

もう１個、先ほどのⅠの３ですけれども、方向性の進捗が（１）、（２）、（３）で書いてあるから、ちょっと分かりにくかったですけれども、例えば（３）については、教育委員会さんが一応考えてくださっているあれだから、教育委員会さんが学習状況調査のことを評価しながら、学校活動の中でどういったことを（１）か（２）か（３）の中に入れて、今度、維持・向上について今後も進めていくみたいな形で、その所轄課がここの進捗のところを埋めていく形になるのでよろしいのでしょうか。

○事務局

おっしゃるとおりです。

○水谷委員

理解しました。

○堀部会長

ありがとうございます。柴田委員もよろしいのでしょうか。こちらのアウトカム指標はあくまでも第２期のものと同じものであるということですが、こちら第３期から変えていくという可能性はないということの理解でよろしいのでしょうか。

○事務局

アウトカム指標は第２期とは同じものもあると思いますが、第３期のものとして設定したものです。

○堀部会長

ここについては今から変更は無いということですね。承知しました。ありがとうございます。

では、ほかに御意見、御質問などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

特に追加の御意見や御質問などはないようですので、本日の委員の皆様からいろいろな御意見が出たかと思しますので、その御意見も踏まえて、事務局のほうで引き続き作業を進めていただければと思います。お願いいたします。

その他の議題については、本日はございませんけれども、委員の皆様から何か御意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、本日の議事はこれで終了となります。委員の皆様におかれましては、御協力、誠にありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお戻しいたします。

○事務局

事務局から事務連絡を行い、第7期横浜市子ども・子育て会議第2回子育て部会を終了。

資料1 横浜市子ども・子育て会議子育て部会委員名簿

資料2 横浜市子ども・子育て会議子育て部会事務局名簿

資料3 横浜市子ども・子育て会議条例

資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱

資料5 「こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン」の点検・評価方法（案）
について